

公明党土浦市議団

行政視察報告書

視察先	徳島県三好市：休廃校活用事例について「ハレとケデザイン舎」 広島県尾道市：サイクルツーリズムについて「ONOMICHI U2」 サテライトオフィス誘致事業について「ONOMICHI SHARE」 愛媛県松山市：「道後オンセナート 2018」「道後アート 2019・2020」 の取り組みについて
視察日	R 元年 7 月 30 日 (火) ～ R 元年 8 月 1 日 (木)
参加者名	吉田千鶴子 福田一夫 平石勝司 目黒英一

視 察 先 徳島県三好市 廃校施設「シモノロ・パーマネント」
視 察 日 R 元年 7 月 30 日 (火) 13:30～15:30
視察目的 三好市の小学校休廃校利活用の取り組み、廃校利活用の先進事例として全国から注目を集める「ハレとケデザイン舎」が手がけるカフェ・保育施設「シモノロ・パーマネント」の現地調査を行い、本市における今後の廃校利活用について参考にする。
視察内容 休廃校活用事例について
説 明 者 三好市 企画財政部地方創生推進課 主幹 豊永 詩保子 様
三好市 企画財政部地方創生推進課 主任主査 片山 秀和 様
三好市議会事務局 事務局長 船井 浩美 様
三好市議会事務局 事務局次長 谷 賢二 様
株式会社ハレとケデザイン舎 代表 植本 修子 様

徳島県三好市について

徳島県三好市は、平成 18 年 3 月 1 日、三野町、井川町、池田町、山城町、西祖谷山村東祖谷山村が合併し、誕生。四国のほぼ中央に位置し、北は香川県、西は愛媛県、南は高知県に接し、古くから交通の要衝として、発展してきた。三好市は市の 90%近くが山地によって構成され、中央部には吉野川が横切っている。大歩危峡や黒沢湿原、紅葉の名所・竜ヶ岳、四国第二の高峰・剣山など豊かな自然や四国霊場第 66 番札所・雲辺寺、平家落人伝説の残る祖谷のかずら橋などの歴史的文化遺産、阿波踊りや祖谷平家まつりなどのイベントがある。面積 721.42 平方キロメートル。人口 26,011 人、12,695 世帯 (平成 31 年 4 月 1 日現在)。

休廃校活用の取り組みについて

① 休廃校活用の経緯

三好市では、少子化・過疎化による児童減少が進み、H22 年、市内の小学校の生徒数 1,265 人、休廃校 14 校だったのが、H30 年には生徒数 896 人、休廃校 26 校と変化していった。児童数の減少による休校数の増加、学校がなくなることによる地域活動の低下が課題であった。当時の市長のマニフェストに休廃校の活用の推進が掲げられ、平成 24 年 4 月から休廃校の活用を推進するために、当時の地域振興課に専任の職員 1 名を増員し、休廃校活用に向けた制度や仕組みづくりにとりかかった。

② 休廃校活用に向けた取り組み

○活用基本方針、募集要項を策定

活用に関する基本方針・募集要項（選定基準等）の仕組みづくり

○休廃校等活用推進委員会の設置（副市長が委員長）

応募事業の選定・採択

基本方針の見直し、事業の進捗状況調査等

○地域意見交換会・意見交換会

各小学校区で意見交換会や活用事業の公募前後の説明会を実施。採択は地元の意見を重視して行う。

③ 休廃校活用に向けた取り組み

サテライトオフィス誘致事業として、視察ツアー受け入れを行う

H25年度 12回 28社

H26年度 3回 23社

市内の空き旅館や休廃校を案内し、休日には観光、文化、自然などを体感してもらう。

三好市ではサテライトオフィス誘致事業を積極的に実施

④ 休廃校活用に向けた取り組み

全国からアイデアを募集（24年8月～） 応募は59件

告知方法は、市ホームページによる活用事業者の公募、文科省「廃校プロジェクト」への掲載

募集開始 H25年3月（第1次募集 22校）

H30年7月（第13次募集 2校）

応募総数18件 選定事業13件

成果として、雇用29名、移住者10名（H29年度末）

⑤ 休廃校の活用事例

○旧太刀野山小学校・旧西宇小学校・旧西山小学校 → 福祉施設（県内・県外・市内法人）

事業内容：デイサービス、コミュニティカフェ、食堂、介護予防、買物代行サービス

○旧河内小学校 → 柚子・豆加工所（県外の株式会社）

事業内容：ゆず汁・豆菓子加工など地元農産物を活用

○佐野小学校 → 物流配送事業（県外の株式会社）

事業内容：スポーツ用品等のインターネット販売のカスタマーサポートセンター、商品保管用の倉庫

○旧野呂内小学校 → 野菜乾燥加工施設（市内の団体）

事業内容：地元農産物（かぼちゃ、さつまいも等）を乾燥加工し、商品として販売

○旧有瀬小学校 → 農産物加工・民泊（市内の団体）

事業内容：こんにゃく、豆腐作り加工・地域おこし協力隊とイベントを開催

○旧出合小学校 → カフェ・デザイン事務所等（県外の株式会社）

H25年、三好市廃校活用プロジェクトにて、代表が廃校を視察し、移住を決断。

H26年7月 「ハレとケ珈琲」開業

H28年春 宿泊施設「ハレとケデザインホテル」開業

SNSを活用した情報発信を行い、県外や外国人の利用者が多いことが特徴

○旧下野呂小学校 → カフェ・保育施設等（県外の株式会社）

H29年10月 普通財産の有償貸付 建物 1,388 m² 運動場 703 m²

※5年契約で土地評価額を参考に貸付

H30年5月開業

⑥ 廃校の活用のメリット

○事業者

- ・経常経費の支援（無償貸付）
- ・和らいだ雰囲気や印象度も良好（地域貢献）
- ・自然・田舎の生活（静か、スローライフ）
- ・関心度が高い（マスコミ、地元、卒業生）

○市

- ・雇用創出。人口増（移住者）
- ・維持管理費用の負担減（管理費、光熱水費）
- ・施設の長寿命化
- ・地域コミュニティの維持や活性化
- ・地域のランドマークに灯がともる

現地調査 「シモノロ・パーマネント」

(株)ハレとケデザイン舎代表の植本さんは、以前は東京都内の広告会社でデザイナーとして働いていた。移住のきっかけは、お子さんが気管支が強くなかったため、自然がたくさんあって空気が綺麗なところを探していた。そして、三好市が広く休廃校利活用アイデアを全国的に募集している情報を得て、同市を視察し移住を決断した。最初は、木造校舎の旧下野呂小学校を気に入ったが、洪水時に流入した土砂がたまっていて、とても使える状態になかったことから市に断られた。そのため、旧出合小学校を借りて、カフェ「ハレとケ珈琲」・デザイン事務所をH26年7月に開業し、H28年春、宿泊施設「ハレとケデザインホテル」を開業した。自然に溶け込み、訪れる人を癒し、非日常の時間を提供することを心がけている。その後、市が旧下野呂小学校の活用を認め、H30年5月、カフェや物販、保育所などの複合施設「シモノロ・パーマネント」として開業。コンセプトは、食とモノと学べる施設。祖谷など自然環境に恵まれているため、利用客は観光客が多く、最近ではインバウンドで訪れる欧米の外国人が増加。ゴールデンウィークなどは、カフェに1日150人くらい訪れる。

施設の活動と事業について

○シロモノ食堂(食の提供と開発)

「訪れた方に地域の美味しいものを味わっていただく」をモットーに、様々な角度で食にアプローチする。

○シモノロ・シロモノ(物品販売)

四国で精魂込めて作られているものや農家のつくる美味しいもの、こどもたちに役立つものをキーンに、物販を行う。「遠赤外線焙煎のコーヒー豆」や「シコクカヌレ」などのオリジナル商品もラインナップする。

○里山のようちえん ハナミエ

基本的にプログラムにとらわれない自由保育(保護者参加可)。自由遊びでは、主に園舎近隣の森のフィールドに出かけて遊ぶ。園舎のすぐ隣の小川と森に囲まれ、遊びは無限。

対象：3歳～5歳の未就学児童 預かり時間：月～金 8:30～16:00

○放課後学校 花咲み

主に放課後の時間を活用し、自然教育や学び体質を育てる活動を行う。夏はキャンプ、食育や木育。9月から開校予定。

対象：小学生 預かり時間：月～金 16:00～18:30

その他の活動・事業

○ブランドデザイン ○自然教育講演 ○プレイフルブースター講座 ○天才ノートカフェ ○花咲みキャンプ ○ハレとケ洋菓子教室 ○食育教室・木育の会 ○雨の日&MORE アートとデザイン

○泰書会（書道教室） ○季節を愉しむ月一茶会 ○パーマカルチャー教育



廃校になった旧下野呂小学校を活用した「シモノロ・パーマネント」



写真上「ハレとケ洋菓子教室」、写真下「敷地裏の小川」



写真上「建築中のサウナ」、写真下「お茶室つづ庵」





主な質疑応答について

Q 避難所として使っていた体育館は、廃校利活用後はどのように使っているのか

A 校舎のみを利活用し、地域で使える体育館としている学校と田舎の方の避難所として使う頻度が少ない学校については、公民館などを避難所として対応している。

Q 地域の方の意見交換会について

A 廃校利活用の申し込みを行った事業者からの説明が地元の人にあるが、決めるのは地元の人
の意見を尊重している。今まで、ほとんど地元の人
の反対があつて、話が決まらなかつた事例はなかつた。

Q 施設の宿泊者について

A 旧出合小学校は、簡易ホステルになつていて、観光を目的とした外国人の利用者が多い。海外
の人は SNS を見てくる人が多い。バスも数本しかない交通不便な地域だが、かえつてデメリッ
トがメリットになつていと理解している。

Q 無償貸付について

A 当時の考え方として、山の中にあるような地域の小学校跡地を活用し、雇用の創出につながる
のであれば、無償でもいいのではないかといつた声が多かつた。

Q 統廃合後の通学路の手段について

A スクールバスや場所によってはタクシーを利用しているケースもある。

Q 現在は廃校利活用担当職員は何名体制か。

A 1名体制で対応している。主だつたところの利活用も進んでいることもあつて増員はしなくて
も大丈夫。

Q 国との連携や補助金は活用しているのか

A 旧有瀬小学校については総務省の補助金（過疎地域活性化交付金）を活用。旧下野呂小
学校については経済産業省の補助金（地域経済循環創造事業交付金）を活用。文科省からの補
助金等はない。

Q 改修などの取り決めなどについて

A 改修については事業者が自由に行なっている。

Q 「ハレとケデザイン舎」の社名の由来について

A 「ハレとケ」とは、柳田邦男氏の提唱した単語であり、日常と非日常という意味。日常と非日常をデザインするという意味から来ている。

Q はじめに、廃校を見たときにどのように感じたか。インスピレーションや閃きは感じたのか

A 閃きしかなかった。デザインを仕事にしているので、場所に関係なくどこでもできる仕事だったというのもある。

Q キャンプの利用について

A 小さい子供の場合は保護者も参加できる。利用者は地元の人よりも市外や県外の人が多い。

Q 食育の取り組みについて

A ワークショップを開催して多くの人 came。第1回は大正時代から出汁を製造販売している会社社長、出汁ソムリエに来てもらって行った。



所感について

【吉田千鶴子議員】

～ 休廃校活用に向けた取り組みの推進～

- ① 平成 24 年 4 月から事業の推進を図るため地域振興課（当時）職員 1 名増員
- ② 活用基本方針、募集要項の策定
- ③ 休廃校活用推進委員会（組織）の設置
- ④ 地域意見交換会及び説明会
- ⑤ 誘致活動（徳島県が推進するサテライトオフィス誘致事業に参画）
- ⑥ アイデア募集（市ホームページへの掲載、文部科学省「廃校プロジェクト」への掲載
成果；平成 28 年度末雇用者 32 名、移住者約 10 名

活用される事業者は、

☆三好市は、休廃校を無償で貸し出し様々な事業者を利用されている。

（無償で貸し出すことに地域の方も、三好市に来ていただけるならこんなありがたいことはないと思っています。）

☆自然、田舎が良い。等

市側は、

☆雇用の創出、人口増（移住者）

☆維持管理費用の負担減（管理費、光熱水費等）

☆施設の長寿命化等

このような三好市役所の皆様の取り組みや廃校を活用している事業者のハレとケデザイン舎の現場を視察させていただき自然、田舎を存分に活用し「人里離れてはいたが世界観と空気が素晴らしかったから」等の決定理由を伺いました。地域活性化や雇用の創出にもつながるこの事業は、本市の統廃合後の小学校の活用にも参考となる事業ではないかと思いました。

【福田一夫議員】

平成 29 年 4 月時点で、27 校の休廃校があるという現実地方の山間部に進む少子化の深刻さを感じた。全国的に進行する問題ではあるが、都市部とは異なる形での問題があると思われる。

休廃校の活用にあたっては、基本方針を設定したが、細かい点にわたっても規定していることは行政財産であることから、必要なことと思われる。

アイデア募集にあたっては、ホームページや文部科学省の「廃校プロジェクト」の利用などを通し全国的に行ったことがポイントである。原則無償貸付であるが、それが応募があった理由であると思われる。旧出合小学校を利用した廃校は、カフェ・ホテルとして活用されている。素晴らしい

自然のなかで、元気に遊んでいる子供たちの姿が印象的であった。

【平石勝司議員】

昨年、文科省の廃校利活用プロジェクトに参加する中で、「ハレとケデザイン舎」は成功事例として紹介されていたので、本市における今後の廃校活用事例として参考にするためにも、是非とも現地に足を運ばせていただきたいと考えていた視察先である。

三好市では、当時の市長のマニフェストに休廃校の活用の推進が掲げられていたことから、増加する休廃校の利活用についての取り組みが始まった。主に過疎地域の小学校が、文科省のホームページでの掲載や無償貸付などの理由もあり、多くの応募者もあったとのことである。その中で地域の中と一体となった事例もあり、雇用も生まれている。

さらに、現地視察先の「ハレとケデザイン舎」代表の植本さんにも直接お話を聞かせていただいたが、自然豊かな環境で子育てがしたいと考えていたときに、廃校になった小学校を見た瞬間にインスピレーションを感じたといっていた言葉が特に印象的だった。地元ではない人がそこに魅力を感じ、古い小学校を生かしながら、新たにデザインを取り入れ、カフェなど、新たな価値を創造していくことに素晴らしい取り組みであると感じた。好立地ということも背景にあるが、魅力が詰まった素敵な場所に海外からも多くの観光客が訪れ、日常を忘れ、非日常のゆったりとした時間を過ごすというのも納得である。本市もこれから上大津地区の小学校統廃合後の活用にも参考になる事例と考える。

【目黒英一議員】

休廃校の活用事例の説明を受けて感じた事は三好市、地元の方の意見、民間の事業が一体となって取り組む事の重要性です。三者の合意が好事例に繋がったと思います。特に受け入れに当たり、「三好市に来て頂けることに感謝」という姿勢が県外からの移住者を呼んでいると、思いました。説明後、旧下野呂小学校を活用してカフェ、保育事業を行っているシモノロ・パーマネントを見学して参りました。ハレとケ デザイン舎の植本さんの話を聞き、三好市の自然を使った食、教育への情熱を感じました。またプロのデザイナーによって廃校がここまで生まれ変わるのかと本当に感動致しました。土浦市でも無償貸付などで経常経費の支援を行ってきた積極的に民間の力を借りて、市外からの移住者を呼べる仕組み作りをしていけたらと思います。

視 察 先 広島県尾道市 「ONOMICHI U2」

視 察 日 R 元年 7 月 31 日 (水) 10:00~12:00

視察目的 しまなみ海道の起点である尾道市のサイクルツーリズム、地域活性化の拠点として元海運倉庫をリノベーションした「ONOMICHI U2」の概要、にぎわい創出の取り組みなど、本市の観光施策について参考にするため。

視察内容 サイクルツーリズムについて

説 明 者 ツネイシ LR (株) 社長室 ブランドデザイン部 主任 井上 善文 様

TLB (株) U2 事業部 マーケティング&コミュニケーション

アシスタントマネージャー

黒田 宵子 様

ONOMICHI U2 オノミチューター について

〈所在地〉 広島県尾道市西御所町 5-11

〈運 営〉 TLB 株式会社

〈開 業〉 2014 年 3 月 22 日

〈設 計〉 SUPPOSE DESIN OFFICE

〈床面積〉 約 2,200 m²





尾道市は、サイクリストの聖地として有名な「しまなみ海道」の起点として、全国はもとより海外からも多くのサイクリストが行き交う。視察先の「ONOMICHI U2」は、尾道駅から徒歩約5分、尾道水道のウォーターフロントという絶好のロケーションに位置する。2012年に所有者である広島県が、1943年竣工の元海運倉庫を利活用するための改修プランを公募し、プロポーザルで選定され、2014年3月オープン。「U2」という名称は、県営上家2号が由来。「U2」というプロジェクト名称がそのまま採用された。

施設の特徴は、自転車を持ち込んだままチェックイン&客室への自転車持ち込みが可能な「HOTEL CYCLE」をはじめ、世界有数の自転車ブランド「GIANT STORE Onomichi」や瀬戸内の食材を生かしたレストラン&バー・カフェ・ベーカリー・ライフスタイルショップを擁する複合施設である。「サイクリング」「ローカリズム / 地域特性」「シーズナル / 季節感」「建築&デザイン」をキーワードに施設を構成する ONOMICHI U2 は、サイクリスト・観光客・地域の方々など、様々な「人が集う場所」、そして「しまなみエリアの情報発信地」となることを目標としている。

<ホテル>HOTEL CYCLE ホテルサイクル

○デラックスツインルーム / スタンダードツインルームを含め、全28室。○自転車を持ったままチェックイン&客室へ自転車の持ち込みも可能。○客室には地元産を背景に生産したオリジナルデニムルームウェアや備後緋を用いた備品などをセット。○宿泊者専用のレンタサイクル(ロードバイク/クロスバイク)を用意。

<サイクルショップ>GIANT STORE Onomichi ジャイアントストア尾道

○新車販売・パーツアクセサリ販売・修理メンテナンス・レンタサイクル・レンタウェア。○レンタサイクルには、常に整備の行き届いたロードバイク・クロスバイク約50台をストック。

<レストラン&バー>The RESTAURANT ザ・レストラン KOG BAR コグバー

○瀬戸内の食材を使用したグリル料理。○朝食～ランチ～ディナー～Barまでオールタイムで楽しめるオールデイダイニング。○サドル&ペダルの「コグチェアー」を設置。

<カフェ>Yard Café ヤードカフェ

○地元ロースターの豆で淹れるコーヒーや地元特産の柑橘や野菜を使ったドリンクやフードメニューを用意。○自転車で乗り付けてドリンク&フードを購入できるサイクルスルーカウンターを海側デッキに設置。

<ベーカリー>Butti Bakery ブッチベーカリー

○地元の季節の食材を使いながら、厨房の焼きたてパンを多種にわたり提供。○パンのある食卓をテーマに「パンに合う」「カラダにやさしい」といったフードアイテムも展開。

〈ライフスタイルショップ〉SHIMA SHOP シマショップ

○What is a 瀬戸内暮らし？をテーマに、暮らしを楽しむための日用アイテム・アパレルアイテムを提案する。○この土地で培われてきた素材で作るオリジナルアイテムや古くても魅力ある地元のアイテムやナショナルブランドからセレクトしたアイテムを展開。



主な質疑応答について

Q 観光客と地元の住民の利用者の割合はどのようになっているか。

A 土日祝日は、市外、県外の人が多いが、平日は地元の人が多い。平日をどのように盛り上げていくかが課題である。

Q サイクリストの割合はどのくらいか。

A ホテルの宿泊者だと3割くらい。サイクリストの立ち寄りポイントとしての利用者が増加してきている。

Q 初心者やリピーターを取り込むための具体的な取り組みについて

A 自転車に興味がない方が施設に訪れ、サイクルショップなど自転車に触れることで、次に来た時には、恋人や家族などとサイクリングに来て、立ち寄るといった事例など、サイクリスト以外のリピーターも年々増えている。さらに、「rapha」といったブランドのポップアップショップやライドイベントやコラボレーションなどの取り組みなども継続的に行ない、エントリー層からエキスパートまで幅広い層を取り込んでいける仕掛け作りを行なっている。

Q 予算について

A 県が電気・水道のインフラ工事・耐震化に約3億円。それ以外工事費はTLB(株)が負担。

Q インバウンドについて

A 宿泊率は3割を超えている。90%が外国人をしめる日もある。ほとんどがサイクリング目的。アメリカのCNNやニューヨークタイムズなどのメディアで、しまなみ海道が取り上げられているため、欧米の外国人が多い。

Q 運営元のTLB株式会社について

A 常石ホールディングス(株)のグループ会社で、「ONOMICHI U2」「尾道駅舎事業」などを運営している。

Q バリアフリーについて

A 自転車のためのスロープを設置しているので、車椅子で来店した方にも好評である。

Q タンデムバイクについて

A 現在、広島県では公道走行が解禁されていないため、用意はしていない。外国人は自転車でトレーラーを引っ張りながら、家族で移動している人が多い。

Q オリジナル商品について

A 商品について、年々変化している。柑橘系など瀬戸内ならでの商品は観光客には受けるが、地元の方には必ずしも地産地消の商品が受けるわけではないので、プライベート商品とナショナルブランド商品をミックスして、取り入れるようにしている。

Q 今後の課題について

A お客様に、どう来場してもらえるのか、楽しんでもらえるのか、いい思い出を持って帰ってもらえるのか、地元の方にとって、この場所がどういう場所になっていけるのか、事業の継続性が大事である。イベントや商品開発、常に何かを考えて行かなければならない。地方都市であるがゆえに、大都市に比べて、エリア人口が少ないなど、マーケットは貧弱である。だからこそ、これからも全てにおいて、知恵を絞っていかなければならない。

Q 県や市のサイクリング事業について

A 当初は、愛媛県今治市が先行していて、同調する形で広島県側も参画していった。ここ数年は広島県の観光施策も変化し、世界遺産のある平和公園や宮島神社など県の西側だったが、最近では東側のしまなみエリアのプロモーションに力を入れるようになり、サイクリングの環境整備などハード整備に力を入れている。また、海外旅行会社と組んで商品開発に海外のプロモーションに力を入れている。さらに、せとうち DMO も違うアプローチをしている。行政と DMO、民間事業者で地域を盛り上げようと協力している。

Q 雇用について

A 従業者は 80 名いる。8 割が地元採用。U2 で働くために、U ターンや I ターンで地元に戻ってくる人もいる。

Q オリジナルのお土産品について

A 地域の人と一緒に開発したものとして、障害者雇用施設のさつき作業所の「ピールキャンディ」という商品がある。ONOMICHI U2 に来た記念に買うもの、尾道に来た記念に買うもの、瀬戸内に来た記念に買うものと消費者の思考はバラバラであり、理想は 3 つが一緒になったものであるため、頭を悩ませている。

所感について

【吉田千鶴子議員】

事業コンセプトに掲げる地元の人にまず来ていただける施設そして観光客、サイクルツーリズムとして、さらにインバウンドも視野に常に来客のニーズがどこにあるのか考え、店内の品揃えなどにも気を配っている。今後もこうしたことは、常に考えて行かなければならないと話されていました。

訪問した際、平日でしたが自転車を楽しむ人々でホテルも満室。レストランも地元のヤングママがベビーカーを押して開店早々来店、外国の方も訪れており、あっという間に満席。

今回の視察で、改めて本市の「自転車のまちづくり」もこれから自転車活用のホテルも駅ビルに入るなど益々地域の活性化につながる事を確信するものでした。

【福田一夫議員】

元倉庫を改装したものであっても、施設全体はたいへんおしゃれな印象をうけるものであった。この点が多くの人を集める理由であると思われる。サイクリスト、観光客、地元の方々など「人が集う場所」を目標としているが、施設のなかにその理念が徹底されていると感じた。

しまなみ海道というサイクリングロードとして世界的にも有名になったものを財産としているが、開業5年にして地元にもサイクリストにもしっかり認知されていると思われる。いい思い出をもって帰ってもらえるか、地元にも喜んでもらえるか、常に考えながら継続できるようにするという考え方は、素朴であるが重要な点であると思われる。

今後は広島県サイドのバックアップによっても、展開が大きく変わる可能性もあり期待されることである。

【平石勝司議員】

「ONOMICHI U2」は、自転車を持ち込んだまま、ホテルに泊まれることができる元海運倉庫をリノベーションした施設であり、しまなみ海道を抱える広島県のサイクルツーリズムの拠点、先進事例として、2104年3月のオープン以来、開業5周年をむかえた今でも全国から注目を集める施設である。

注目すべきは、サイクリストや観光客の方に利用してもらうことはもちろんだが、なによりも地域住民に愛され、コミュニティが生まれる場所を目指している点である。そういったことから、ベーカリーなど日常的に使うショップも入っている。視察当日もランチタイムになると、レストランは観光客をはじめ、ママ友さんたちなど多くの地元らしきお客様が来店し、あっという間に満席になっていることから地域住民のコミュニティの場として多くの人に愛されているのがわかる。広島県、尾道市はサイクリング観光プロモーションに力を入れるなかで、せとうちDMOの役割も大きいとのことである。行政と地域DMO、民間事業が連携する取り組みについて、本市にはDMOが

ないため、今後研究していきたいと思う。「しまなみ海道」には及ばないとしても、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」は現在、全国から多くのサイクリストの方がお越しにたいており、まだまだポテンシャルを秘めていると考える。本市においてのサイクリング関連施設では、「りんりんポート土浦」が今年春にオープンし、来年にはいよいよ「プレイアトレ土浦」のホテルも開業する。また、川口2丁目地区においての民間活力による開発の計画も進行している。

今後、人口減少が進むなかで、観光による地域活性化はますます重要な課題である。尾道市も地方都市であり、大きな商圏ではないが、「ONOMICHI U2」のように、地域の愛する方たちが知恵を絞り、魅力的な拠点を整備することでの成功事例を視察させていただき、お話を聞かせいただいたことは、今後の観光振興施策を考えるうえで大きく参考になった。

【目黒英一議員】

海沿いの海運倉庫をリノベーションした ONOMICHI U2 という複合施設へ視察して参りました。県の所有という事でインフラ整備の費用はあったそうですが、それ以外は県・市からの支援はなかったそうです。サイクリストに特化したホテルをはじめレストラン、ショップなどがテナントとして入っておりますが、いずれもデザイン性に富んでおり居心地の良い空間でした。とても景観の良いところにあるので、リピーターや海外からの利用者も増えているのも納得出来ました。また運営会社でも商品開発も積極的に行い、売上不振な時はパッケージやネーミングを変更することで改善してきたという話はとても興味深い内容でした。

視 察 先 広島県尾道市 「ONOMICHI SHARE」
視 察 日 R 元年 7 月 31 日 (水) 13:00~14:30
視察目的 尾道市が実施した「おのみちサテライトオフィス誘致事業」公募型のプロポーザルとして採択されたシェアオフィス「ONOMICHI SHARE」の取り組み、サテライトオフィス開設による交流人口の増加、若者の定住促進や雇用創出、さらに地域の課題解決の取り組みなどの効果について視察を行う。
視察内容 サテライトオフィス誘致事業について
説 明 者 株式会社ディスカバーリンクせとうち
ゼネラルマネージャー 地域コンシェルジュ 後藤 峻 様



設立経緯について

運営元の(株)ディスカバーリンクせとうちは広島県尾道市で、備後地方のデニムの素晴らしさを見直し、本物のものづくりに挑戦する「尾道デニム」や地域全体をフィールドに学びの場「尾道自由大学」など様々な事業を手がける。2015年1月、市が実施した「おのみちサテライトオフィス誘致事業」公募型プロポーザルを経て、資料用の倉庫としていたウォーターフロントの同施設を、シェアオフィス「ONOMICHI SHARE」としてオープンさせた。「定住促進」「雇用の創出」につながることを目的とする。現在では、地域内のクリエイターや事業者、地域の情報などが集まるビジネスのハブスポットとしての役割を担う。

特徴について

市営・住吉浜上屋倉庫の2階(約117坪)をワンフロアに改装。目の前の尾道水道を一望しながら仕事ができるように「大きな窓」があるのも特徴。尾道市外、広島県外のIT事業者にはリラックスして仕事をしていただく、福利厚生施設も兼ねたサテライトオフィスとしてつかってもらうことを主題におきながら、地域の事業者の方々にも訪ねていただき、双方が繋がる場所として、「自由な発想を生み出す場所」となることを目標にしている。シャワールームも完備。サイクリングで、いつでもしまなみ海道に出られる好立地にあり、会員向けに自転車を設置している。広い室内にはゆったりとアンティーク家具が並べられ、ストレスを感じにくい空間であることも特徴である。ハブとしての機能として、コンシェルジュが在籍し、仕事のサポートや情報の集約、相談やマッチングなども行う。尾道市商工課、政策企画課から委託を受けて、希望者の方には創業支援などの取り組みも行なっている。広島県からは委託を受けて創業支援セミナーなど開催している。

利用状況について

移住者(U・Iターン)として、web制作や漫画家。リモートワーカーとして、webマーケティング・プログラマー。また、地元出身者では、介護福祉関係の事業者もいる。会員数は現在3社、約20名。30代前後のユーザーが多い。

料金体系について

【会員プラン】

〈現在〉

- 法人会員 50,000円 1社3名まで同時利用可。
- 個人会員 10,000円
- ドロップイン(スポット利用) 500円/2h、1,000円/1day

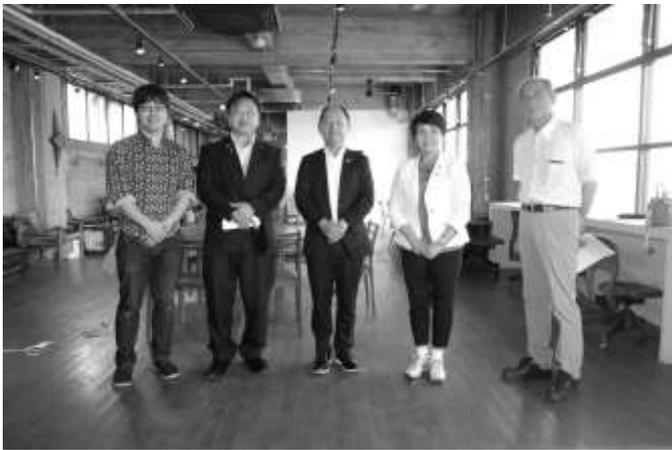
〈2019年9月以降〉

- 法人会員 50,000円(全日24時間)
- 個人会員
 - ・フルタイムプラス(全日24時間) 15,000円
 - ・フルタイム(月-金 9:30-21:00 / 土 10:00-17:00) 12,000円
 - ・デイトime(月-金 9:30-21:00) 10,000円
 - ・ナイト&ウィークエンド(月-金 18:00-21:00 / 土 10:00-17:00) 8,000円
- ドロップイン(スポット利用) 9:30-18:00 500円/2h、1,000円/2h~

今後の課題について

開業当初のコンセプトから時代の変化などの状況に対応していくことがあげられる。例えば、福利厚生のために設置してある自転車に利用者とスタッフが同行し、オススの地域の魅力あるスポットを紹介するなど、コトづくりにも力を入れるようにしている。サテライトオフィスから、リモートワークやワーケーションといった、これから期待される働き方への広いアプローチを検討している。

地元事業者との連携を強化して、利用者と外部関係者とを繋げることによる新規プロジェクト、事業の創造を促すこと。外部から集まるスキルを地域に残していくこと。企業とクリエイターと行政をどのようにマッチングしていくかということがあげられる。



主な質疑応答について

Q サテライトオフィス事業を始めたきっかけについて

A 尾道がサイクリング関連の観光で盛り上がっていく中で、インバウンドなど企業が注目し、入ってくることを見越して投資としての意味合いもあって拠点整備を行った。

Q 尾道市がサテライトオフィスの公募を行った経緯について

A 倉庫を企業の支店にするのかなど議論があり、拠点にすることがいいという判断でサテライトオフィスという活用に決まった。

Q 大学生が勉強に利用することについて

A 市内に大学が1校あるが、ウォーターフロントエリアにあまりこないため、利用はあまりない。

Q 大学生への周知や宣伝について

A 宣伝はしている。今後は学生の利用者も増えてほしいと考えている。

Q 尾道デニムと連携はしているのか

A 年に1回、尾道デニムを履いている方の交流会はこの施設で実施している。

Q アンティーク家具を採用した理由について

A 京都のインテリアデザイナーが家具をセレクトした。

Q 成功事例について

A お茶の専門家がネット販売を行うのに、コンシェルジュが声をかけ間に入ることで、webデザイナーに声をかけ、インターネット販売事業を立ち上げた。現在は軌道にのり、今では商店街に出店をしている事例もある。

Q 尾道市にはデザイナーなどのクリエイターは多いのか

A 地域内には決して多くない。移住者やUターンやIターンの人の中に広告代理店経験者やデザイナーがいたりするなど、地域の中で、利用者の方のデザインの仕事やクリエイティブな仕事が増えてきている。

所感について

【吉田千鶴子議員】

尾道の海と山の環境に恵まれたのどかな地域でストレスフリーな仕事を可能にする空間を提供している。

受付には、コンシェルジュが在籍し不在時に荷物の受け取りや、ゲストとの打ち合わせには、お茶出しをし、相談にも応じる。本社とのウェブ会議も可能。訪問してまず感じたことは、部屋の空間に仕切りがなく骨董品の椅子やソファが配置され、立ったままパソコンに向かう等思い思いに仕事をしていることに驚きと同時にこのように仕事ができることは素敵なことであるとも感じました。そうした中で仕事をしてきた人と人を結ぶ事例として、あるみかん農家の方と情報発信が得意な方を結び、今や、みかんは、海外にまで輸出されていると伺いました。本市においてもサテライトオフィス誘致事業として参考となるものと考えます。

【福田一夫議員】

2012年に設立された若い会社が運営している。「まちが失ってはいけないものを 事業を通して表現し せとうちの未来を育てて行きます」を会社目的としているが、いくつか事業を展開していくなかで全体的に若い発想で貫かれていると感じた。

倉庫の2階を利用したもので尾道水道を一望でき、アンティーク家具を利用した机、椅子はオフィスのイメージではない。新しい形のオフィスであり、目標である「自由な発想を生み出す」ことも可能なのかわかわれてくる。瀬戸内のもつ自然的、歴史的背景のなかで失ってはいけないものを守ろうとする姿勢は多くのものを失ってきた日本全体を考えると、重要な指標となると思われる。今後の展開がさらに期待される場所である。

【平石勝司議員】

「オフィスサテライト誘致事業」に公募し、現在運営されている会社側の現場の生の声として、貴重な意見を聞かせていただいた。シェアオフィスとして、主にクリエイターなどの利用が多いとのことだが、中でも会員同士の仕事と仕事をつなぎ、事業の立ち上げなどの成功事例などの興味深いお話も伺うことができた。会員数の伸びなど課題はあると思うが、今後も全国に広がるコワーキングスペースの動向には注視していきたい。

最後に、運営元のディスカバーリンクせとうちの社名の由来は、せとうちをディスカバーしてリンクすることである。町が紡いできたことに向き合い、魅力を発見し、国内をはじめ世界中の人とつながり、次世代につなぎ、街の未来を育てていくという素晴らしさを感じた。

【目黒英一議員】

尾道市の「定住促進」「雇用の場の創出」を目的にサテライトオフィス誘致事業としてオープンしました。ONOMICHI U2 と同じく倉庫をリノベーションした施設でしたが、備品に関してはリサイクルしたものをメインに使用されていました。味わいのある癒しの空間という印象でした。広い空間のオフィスで、しかも目の前が尾道水道なのでいつでも海が見られる職場。仕事でのストレスも感じにくいかと思います。またコンシェルジュがいることにより異業種の方が同じオフィスで仕事をする事でのメリットも生まれきているそうです。

市外から来た企業のスキルを尾道市に残して行く事により、地域の魅力を発信出来るようにしていくのが今後の課題だそうです。土浦市でも働き心地の良いシェアオフィスが出来るように働きかけたいと思います。

視 察 先 愛媛県松山市

視 察 日 R 元年 8 月 1 日 (木) 10:00~12:00

視察目的 「道後オンセナート」や「道後アート」などアートフェスティバルによる地域活性化、運営方法や広報などについて視察し、本市における今後の文化・芸術による地域づくりのあり方や地域活性化対策として参考にするため。

視察内容 「道後オンセナート」「2018 道後アート 2019・2020」の取り組みについて

説 明 者 松山市産業経済部 道後温泉事業所 副主幹 白川 剛士 様

松山市産業経済部 道後温泉事業所 道後温泉活性化担当 鎌田 めぐみ 様

道後アート事業について

「道後温泉」は H26 年、同市のシンボルである道後温泉本館の改築 120 周年の大還暦を記念してアートフェスティバル「道後オンセナート 2014」を開催。

日本最古の温泉と言われ、国内を代表する地域資源にアートを取り入れ、新たな道後温泉の魅力を国内外に向けて、話題性を発信し、多くの観光客・市民が訪れた。現在も継続的にアート事業を展開している。

オンセナートの主催は実行委員会方式を採用。主な構成団体として、○道後温泉旅館協同組合、○道後商店街振興組合、○道後温泉誇れるまちづくり推進協議会、○大学・小中学校、○愛媛県、○松山市。○その他協賛企業。連携機関として、○商工会議所、○愛媛経済同友会、○観光コンベンション協会。2015 年、2016 年は地元団体が中心。

当初地元の声として、アートで観光客が増えるのか、プロデュースやインスタレーションなど、横文字ばかりで分かりづらい、イベントよりも「道後温泉記念館」のようなハコモノがいいのではないかといった声も多くあったが、瀬戸内国際芸術祭で国内外から多くの観光客が訪れている状況もあり、記念する事業としてアートが採択された。

アート事業の目的として、アートファンや 20~30 代の女性客をターゲットにした新たな顧客とリピーターの創造、ビジネスチャンスの創出、道後×アートといった最古にして最先端といったブランディングの再構築などがあげられる。

特徴として、開催期間が 1 年間といった長期間での開催。昼と夜のまち歩きができるなど、街の回遊性、滞在性を高める作品の配置。温泉の魅力だけでなく、「道後 = アート」という新しい道後ブランドの構築。

道後オンセナート 2014

○開催期間 2013年12月24日～2014年12月31日

○「アートにのぼせろ」を湯の街にかけたキャッチコピーを旗印に、約1年間、国内外29組のアーティストの作品が街と共演、映像やライトなど道後温泉本館自体をアート作品に仕立てた大作の一方、道後の歴史を紐解き、日常に溶け込ませた作品などを展示。

○参加アーティスト 荒木経惟 / 草間彌生 / KIKI (キキ) / 谷川俊太郎 / リリアン・ブルジェア / 中谷芙二子 / スティーヴン・ムシンなど29組。

○「道後オンセナート2014」終了後、観光客が増加したことにより、地元の人々は手応えを感じ、アートは人を呼べるという認識に変化した。そして、さらに「道後アート」として引き継がれ、温泉街であるこの地に新たなアートシーンを生み出すことになる。

蜷川実花×道後温泉 道後アート 2015

○開催期間 2015年5月1日～2016年2月29日

○陣幕ひとつでガラリと建物の雰囲気を変える蜷川ワールドは、街のあちこちに点在する作品が、道後の新たな顔を引き出した。女性に絶大な人気を誇る蜷川実花の作品は、浴衣やホテル・旅館の部屋など温泉街ならではの展開を広げ、道後温泉本館の外観を一変させる演出を行なった。特に、女性への反響、SNSによる拡散が多く見られた。アート展以降、女子旅の人気観光地として注目されるきっかけとなった。

街歩き旅ノ介 道後温泉の巻 山口晃 道後アート 2016

○開催期間 2016年4月29日～2017年8月31日

○時空が混在した鳥瞰図などで国際的に活躍する画家・山口晃をメインアーティストに迎えた道後アート2016。絵画だけでなく、商店街の入り口のゲートや電柱など、道後のオリジナルの作品などで道後温泉本館周辺をより立体的に、道後の街をより深く感じる仕掛けで魅了した。

道後オンセナート 2019

○開催期間 2018年4月14日～2019年2月28日

○「アートにのぼせろ」をキャッチコピーに、4年ぶりのアートの祭典。25組のアーティストが参加。オマージュ、賛歌をキーワードに作品を展示。

○参加アーティスト 大巻伸嗣 / 三沢厚彦 / 浅田政志 / 久村卓 / 石井七歩 / 谷このみ / 浅井裕介 / 鈴木康広 / 田中泯 / BEAMS など。

○道後オンセナート2018作品

- ・パブリック作品 13 作品 (野外や市有施設に展示。無料で鑑賞できる)
- ・ホテルプロジェクト 5 作品 (ホテル・旅館や客室ロビーなどにアーティストが空間演出した作品の総称。一部有料作品)
- ・イベント作品 14 作品 (ダンスパフォーマンスなどのイベントを開催)



写真上

「つばき」大巻伸嗣 2018

松山市の花である「椿」をモチーフにした大型立体作品。

写真右

豊かさ / 土の星の人 浅井裕介 2018

土と水を使用した「泥絵」で知られる浅井裕介が道後に 10 日間滞在し制作。



日比野克彦×道後温泉 道後アート 2019・2020「ひみつじゃない基地プロジェクト」

○開催期間 2019年5月30日～2020年2月28日

○これまでのアートイベントとの大きな違いは鑑賞中心のアートイベントから参加型のプロジェクトに変化したこと。地域や観光客も参加して、アーティストと一緒に楽しむことを目的としている。これからの活動予定として、ライブペインティングで作品展示、道後で審査や作品の監修、プロジェクトに関わる皆さんとの交流。

○まちなか拠点 住所：伊織道後湯ノ町店 時間：9:00～21:30

参加者やボランティアが集える拠点として、道後オンセナート、道後アートの映像やドキュメントブックを展示。「ひ」のダンボールを持って記念撮影できる。



松山市の観光客の現状について (H30年観光客推移数)

H24年 552万4,000人 → H30年 601万1,600人に年々増加

推定消費額は、788億2,005万円

観光客推定数 601万人 6年連続増加

外国人観光客数 21万7,400人 6年連続過去最高

○楽天トラベル「おんなひとり旅に人気の温泉地ランキング」5年連続1位！

○環境省と観光庁が支援 「温泉総選挙2016」 女子旅部門 1位！

○「じゃらん編集長が選ぶ！元気な地域大賞」 2年連続大賞受賞！

アートフェスティバルを実施したことにより、年々観光客が増加し、特に女性の観光客が増加傾向にある。

道後 REBORN プロジェクトについて

日本最古の湯と言われる道後温泉のシンボル「重要文化財 道後温泉本館」は築 125 年を超え、次世代に受け継ぐため「営業しながらの保存修理工事」を進めている。公衆浴場として営業しながらの保存工事は日本初の取り組みであり、1 期工事期間中は、手塚治虫のライフワークである「火の鳥」とコラボレーションした「道後 REBORN プロジェクト」を展開している。全体を装飾するラッピングアートが 2019 年 7 月からスタートした。



主な質疑応答について

Q 最初に、記念事業としてのアート事業を提案したのは誰か

A 市民の方から声があがった。瀬戸内国際芸術祭で国内外から多くの観光客が訪れている状況を見て、記念する事業としてアートが採択された。

Q 長期間開催において、アート作品の管理の問題について

A 観光客がいつ来てもアートを楽しめることを目的に作品とイベントを組み合わせる。1年以上持たせることが条件。ホテルの中の作品については、ホテルが施工費を負担し、管理を行う。
例えば、部屋を丸ごとアーティストのインスタレーションになる「ホテルホリゾンタル」では草間彌生氏の作品について、メンテナンスも必要になるのではないかと懸念していたが、宿泊者も丁寧に扱うことで、特にメンテナンスも必要としなかった。

Q 道後オンセナート 2014 を始めた時のプロデュースやディレクションは誰が行ったのか

A 東京・青山にあるワコールの「スパイラル」がプロデュースやディレクションを行った。道後に足をなにも運び、歴史などを確認しながら、アーティスト選びなどを行った。

Q 2015 年以降についてはどのように進めたのか

A 実行委員会の中に専門委員を配置し、フリーで活動しているキュレーターや森美術館の関係者を配置し、今道後に合うのは誰かというところから蜷川実花や山口晃を推薦してもらい、交渉を進めた。オンセナート 2018 の時は、実行委員会と別にアーティスト選考委員会を立ち上げ、地元の人を入れて選考を行った。

Q 蜷川実花さんを選考した理由について

A 新しい客層の獲得を目的に、30~40 代に圧倒的支持を集める女性をメインターゲットにインスタなど情報発信力のある層をターゲットに、あえて仕掛けた。

Q 作品に対する対価について

A アーティストと交渉して決めていく。

Q オンセナート 2014 の予算について

A だいたい1億2千万円くらい。

所感について

【吉田千鶴子議員】

この事業は当初、アートをしなくても道後は元気。アートで観光客が本当に増えるのか。イベントをするよりも「道後温泉記念館」のような建物を建てたほうが良いのでは等の地元の声。そうした中、瀬戸内芸術祭を参考とし地元の方々へ理解を広げ、温泉の魅力だけではなく、「道後＝アート」という新しい道後ブランドを立ち上げる。（アートはお客様が来てくれる）アート事業の特徴は、開催期間が約1年等、長期間で開催。ホテル側が予算を出し管理し営業する。イベントを組み合わせ、街に合う芸術家を招聘する等。こうしたことに鑑み本市でも「まち」と「アート」を結びお客様に来ていただくことを提案したいと思います。

【福田一夫議員】

道後温泉という全国的にも有名な温泉にアートを取り入れたものであるが、まったくミスマッチではなく新たな魅力が生まれたことが大変に興味深い。瀬戸内芸術祭に刺激を受けたとの話であるが、アートのもつ力と可能性を大いに感じさせる事業である。当初は心配する地元の声もあったようであるが、それもまた当然のことであろう。成功の一つの要因としては産学官の連携があるが、多くの団体、多くの人を巻き込んだことが大きいと思われる。

作品を提供したアーティストが知名度のある一流の作家であることも成功の大きな要因であろう。SNSの発達による情報拡散の早さや広がりも、話題となった大きなポイントである。温泉とアートの組み合わせは、今後も他分野でも広がりを見せる可能性があり、アートのもつ力を大いに感じた。

【平石勝司議員】

瀬戸内国際芸術祭から発想を得て始まった事業であり、日本最古と言われる道後温泉に、現代アートを取り入れた好事例である。実行委員会には市民、行政、団体・専門家なども参加している。特に、印象に残った事例としては、若い女性というターゲットを明確にして選考した結果、蜷川実花さんといった圧倒的に支持を集めるアーティストとのコラボレーション「道後アート 2015」である。「ホテルホリゾンタル」では洋室全体を樺をモチーフに蜷川実花の作品で覆ったビジュアルは圧巻である。さらに、フォロワーが約30万人のインスタグラマーに蜷川実花さんがディレクションをした方に浴衣を着た写真を投稿してもらったら、浴衣が着たい、写真を撮りたいという観光客が殺到したといった事例からも SNS の活用など、仕掛けづくりをトータルで考えていることも非常に参考になる視察であった。東京の PR 会社との連携やプレスツアーなど本市でも今後、参考にしたい取り組みである。

【目黒英一議員】

もともと道後温泉という観光資源があるのですが、道後温泉本館改築 120 周年という節目でアートを使ったイベントを行い、更なる観光客増加に繋がった成功事例を視察して参りました。温泉地にアートという通常結びつかないものでしたので疑問の声が多かったそうですが、新たな顧客を呼ぶには思い切った事も必要だと説明を聞き、本当に同感致しました。若者にも観光を楽しんでもらえる工夫として、アートを点在させて温泉だけでなく町巡りも楽しめるという展示方法に本当に感心しました。また地元の若者中心に SNS での情報発信も非常に効果的だと思いました。視察研修の3日間共通して感じたのは、土浦市でも新しいものを積極的に取り入れていけるように、また失敗を恐れずに受け入れられる土壌作りが必要だと思いました。